

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



おいしそうにできた～

その笑顔に会いに行く お誕生日おめでとう

やすらぎの郷ヘルパーステーションでは手作りケーキで毎年お誕生日のお祝いをしています。それぞれの利用者様がお好みの食材で食べられる硬さで、その方を想いながら完成させています。



お誕生日おめでとうございます！

ヘルパー 一同より



みんなの広場



老親の介護と自分の仕事

私の母は生まれてから亡くなるまでの九十年間をふるさと飯野で過ごしました。幸せな生涯だったと思います。

しかし、亡くなるまでの数年間はどうかだっただと思います。母は一人暮らしでした。娘の私は別の所に住み、仕事中心の生活を送っていました。母はいつの間にか認知症を発症していました。近所の方から知らせを受け、それを知ったとき、私ははたと困ってしまいました。私はそれまで何も考えていなかったからです。母を一人にしてはおけない。明日からどうしようと思いました。そして、勝手ながら仕事はやめたくないと思いました。

その時近所の方が民生委員さんとやすらぎの郷さんに電話してみたらと声をかけてくれました。それが天から降りてきた救いのクモの糸となり、仕事と母の介護の両立の日々が始まりました。

母は発症するまで我慢を重ねていました。体調が悪くても不安でも仕事に追われる娘に遠慮して言い出せなかったようです。

その埋め合わせには不十分でしたが地域の方ややすらぎの郷の方々の力を借りて、母の最期の日まで介護することができました。

感謝あるのみです。ありがとうございました。

<賛助会員 高澤 朱>

新村 章さんを悼む

新村さんには、NPO設立以来の会員・広報委員として、法人運営にご尽力いただきました。総会や広報委員会における力強いご意見は、「安心して住み続けられるいいのを目指し」というNPOの理念に共感したから、という原点から湧き出したものでした。人は加齢とともに出来なくなる現実があります。それを一人一人が助け合うことにより自分が住み慣れた場所で住み続けられる、そんな飯野であることを願いながら、新村さんは地域社会における「自助・互助」の大切さを求め続けられ、残された私たちに託されたのだと覚悟しています。

会報は、2014年10月に第1号が発行されました。それから号を重ねて今回は20号になります。広報委員として7年間、毎回編集会議に参加し、「会報のあり方や広報の仕方をもっと大胆にしたほうがよい」と話されていたことが印象に残っています。内容を話し合いながら、実は福祉のことを楽しく語っていたのだと思います。

新村章さんの心からのご冥福をお祈りいたします。

事務局長 齋藤 憲芳
広報委員 熊田 吉弘
宇佐見 芳子
三崎 かおる

NPOとして「公助」を考える



「公助」とは・・・

前号の続きです。国の地域包括ケアでは、「公助」とは生活保護や福祉事業、と定義しています。

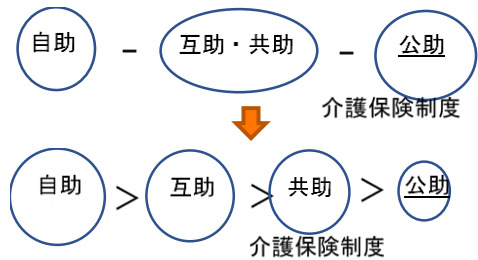
○「自助を基本としながら互助・共助・公助の順で取り組んでいく」と「自助・互助」が強調されています。

○それぞれの役割を踏まえながら、連動して提供されるようなくみ作りが検討されなければならない」としています。

前回、介護保険制度は「共助」に位置付けられているとお話しましたが、「公助」ではないかと素朴な疑問？がー。この制度には、財源の半分が国、都道府県、市町村からの公費が投入されています。市町村等が保険者として運営に責任を持っています。その意味

では、公的責任が強い制度です。

2010年頃より分類が変わった？



介護保険制度が「共助」に位置付けられてから、全額自費サービスの“家事代行”と介護保険サービスの併用、いわゆる混合介護が容認されたり、1日複数回の生活援助のヘルパーが制限されたり、ヘルパー不足のために必要なサービスが受けられない状況がひろがっているように思います。公的責任の減退では、「自助・互助」の頑張る気持ちは上がらないと考えます。

令和2年度の事業状況

令和2年度は、コロナウィルス感染拡大防止のWEB研修等を実施しながらのサービス提供に徹しました。利用者の入退院その他の事由により、訪問介護部門の利用者は大きく減少しました。居宅介護

第3四半期 (R2/12までの累計)

支援部門と生活支援部門は、増加しました。

特別な収支としては、補助金が2事業で1,435千円、寄付金500千円がありました。なお、補助事業は年度末までに完了しました。

訪問介護・総合事業計 居宅介護支援・認定調査事業 生活支援活動事業

	利用回数	収入(千円)	利用回数	収入(千円)	利用回数	収入(千円)
R2年度	4,275	13,295	505	5,761	101	586
R1年度	4,734	14,547	487	5,448	90	450
増減	△459	△1,252	18	313	11	136

R2年度利用回数合計 4,881回 (R1年度 5,311回) 430回減

R2年度利用収入合計 19,643千円 (R1年度 20,447千円) 804千円減



不老長寿の薬

お医者さんの前で「風邪だ。熱だ。」と自分で病名を決めて診療を求めている時がある。おこがましい話で、私は何を言っているのだろうと思って恥ずかしくなる。

先月二月、同級生三人が続けて旅立った。電話で連絡を取り合った後、ちなみに、置いてきぼりを喰った者達の「異口同音」は「体が痛い」だった。オオー!!私もだ。体の節々肩腰の激痛と発熱、食欲不振で「SOS」となったのが、去る一月のことだった。御歳来る五月で満八十六歳になるのだから仕方なかんべ。体の要所がすりへっても、退化しても。出来るなら、一発で、若返らせる薬の発



明でもないかなア。なんて思ったりするのだがねエ。風邪だと思ったら、風邪薬と勝手な所望をくり返しなが、天女になるまで、お医者さんと仲良く暮して行こう。こんな、か細い主張が、私の「生き導」となっているのは確かだナと思う。

並行して私は、以前から続けている「書く画く楽しみ」を捨てないでいる。なぜなら「不老長寿の「薬」」は、「自分」で「生産」していくしかないと思っているから。こつこつと。これから生かされる時間が、いかほどでも「不老長寿」に違いないから。

毎日が、ありがたいねエ。

青木 寺島 クニ子



会員・賛助会員
ボランティア募集



NPO やすらぎの郷いいの
福島市飯野町字前川16
TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一言一語

今日で大震災、原発事故から10年。一昨年の台風の被害、コナ禍、2月のマグニチュード7.3の大地震と災難続きである。10年前の地震よりも大きく壊れた家もあると聞く。この苦しい状況に春が早く訪れてほしいものである。

(K)